

第 59 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 議事録

1. 日 時:2012 年 2 月 28 日(火)13 時 30 分～16 時 15 分
2. 場 所:日本機械学会 第 1 会議室
3. 出席者:(委員 21 名中、出席者 16 名(うち代理 2 名)、欠席者 5 名)
小溝(阪大)、藤田(三菱重工)、飯田(東電)、木村(NIMS)、三好(川崎重工)、
和泉(富士電機)、大橋(IHI)、高須(日本電気協会)、松本(東芝)、中垣(早大)、
佐藤(発電技検)、野井(ロイト)、奥野(中電)、築山(バブ日立)
代理者:西ノ入[山本(電中研)]、松田 [川端(HSB ジャパン)]
欠席者:田村(火原協)、西村(日立)、高西(関電)、長谷川(新日鐵)、奥村(保安院)
オブザーバ:茂田井(東電)
事務局:海野(記)

4. 配付資料

- 59-1 . 第 58 回火力専門委員会議事録(案)
- 59-2 . 専門委員会・分科会委員案
- 59-3 . 第 59 回規格委員会議事録(案)
- 59-4- (1) 材料分科会報告, (2) 構造分科会報告, (3) 溶接分科会報告
- 59-5 . 火力専門委員会書面投票結果報告(詳細規定案材料分科会関連)
- 59-6 . 発電用設備規格委員会書面投票2次投票結果報告(詳細規定案材料分科会関連)
- 59-7 . 規格委員会書面投票意見対応案(詳細規定案材料分科会関連)
- 59-8 . JESC審議用説明資料案

5. 議事

- (1) 前回議事録確認 [資料 59-1]
前回議事録(案)について確認を行なった結果、意見等は特になく、議事録案は承認された。

(2) 専門委員会委員、役員の承認

- (2-1) 専門委員会委員の承認 [資料 59-2]

火力専門委員会で、以下の新任候補の推薦および以下の委員の再任意向が報告された。挙手による採決を行った結果、出席委員全員の賛成で、次回規格委員会に推薦することが承認された。

各分科会より、以下の委員の再任意向および役員の互選による推薦が報告された。挙手による採決を行った結果、出席委員全員の賛成で承認された。

- ・ 火力専門委員会:(退任)中垣 隆雄委員(2 月 29 日退任予定)

(新任候補)三原 毅氏, 天野 嘉春氏

(再任候補)和泉 栄委員

- ・ 材料分科会:(再任候補)木村委員, 田村委員

(主査候補)木村委員(再任)

- ・ 構造分科会: 新任候補・再任候補・退任なし
- ・ 溶接分科会: 新任候補・再任候補・退任なし
(主査候補) 青山委員 (新任)
- ・ 配管減肉分科会: 新任候補・再任候補・退任なし

(3) 規格委員会、分科会他報告

(3-1) 発電用設備規格委員会報告

[資料 59-3]

第59回規格委員会の審議内容のうち、火力専門委員会に関連する内容が報告された。特記事項は以下の通り。

- ・ 発電用火力設備規格の書面投票(2次投票)の3件(基本規定案, 詳細規定案構造分科会関連, 詳細規定案溶接分科会関連)の書面投票可決となっており, その意見対応に伴う修正案について提案し, 審議した結果, 修正内容が編集上の修正と認められたため, 上記3件は正式に承認された旨, 報告した。また, 詳細規定案材料分科会関連は火力専門委員会書面投票再投票が可決後, 規格委員会書面投票再投票に入ることが承認された旨, 報告した。

(3-2) 材料分科会報告

[資料 59-4-1]

木村委員(材料分科会主査)が、第63回材料分科会(H24.2.16)の審議事項および決定事項について報告を行った。次回は2012年5月8日(火)に開催予定。

- ・ 規格委員会書面投票(詳細規定案材料分科会関連)意見への対応案の意見まとめを実施。
- ・ JESC説明資料案の審議を実施。
- ・ 公衆審査用見え消し版原稿のレビュー方針について審議を実施。

(3-3) 構造分科会報告

[資料 59-4-2]

飯田幹事(構造分科会主査)が第71回構造分科会(H24.2.14)の審議事項および決定事項について報告を行った。次回は2012年5月11日(金)に開催予定。

- ・ 規格委員会書面投票(詳細規定案材料分科会関連)意見への対応案のうち, 構造分科会に関連する内容について意見まとめを実施。
- ・ JESC説明資料案の審議を実施。
- ・ 公衆審査用見え消し版原稿のレビュー方針について審議を実施。

(3-4) 溶接分科会報告

[資料 59-4-3]

茂田井氏(溶接分科会幹事)が、第50回溶接分科会(H24.2.6)の審議事項および決定事項について報告を行った。次回は2012年5月16日(水)に開催予定。

- ・ 規格委員会書面投票(詳細規定案材料分科会関連)意見への対応案のうち, 溶接分科会に関連する内容について意見まとめを実施。また, 溶接分科会関連のレビュー票の修正および公衆審査募集用の見え消し版原稿のレビュー方針について審議を実施。
- ・ JESC説明資料案の審議を実施。

(3-5) 火力専門委員会書面投票(再投票)結果報告

[資料 59-5]

発電用火力設備規格の火力専門委員会書面投票結果について報告した。

- ・ No.59 詳細規定案材料分科会関連(再投票)

投票期間:2011 年 12 月 6 日(火)～2011 年 12 月 20 日(火)

投票結果:可決(委員数5分の4以上の投票数により投票成立, 投票数3分の2以上の賛成票数, 意見付反対票無しにより可決)

投票内訳:委員数 21 名

賛成 19 名

反対 0 名

保留 0 名

不投票 2 名

投票意見:反対・保留・参考意見とも無し

(3-6) 規格委員会書面投票(再投票)結果報告

[資料 59-6]

投票開始条件であった火力専門委員会での再投票(No.59)可決を受け, 書面投票再投票を実施し, その結果を報告した。

- ・ No.187 詳細規定案材料分科会関連(再投票)

投票期間:2012 年 1 月 13 日(金)～2012 年 1 月 27 日(金)

投票結果:賛成票数は可決条件を満たすが, 反対票があるため, 反対意見への対応を行うこととなった。

投票内訳:委員数 31 名

賛成 27 票

反対 1 票

保留 1 票

不投票 2 票

投票意見:反対・保留意見有り(火力専門委員会資料に添付)

(4) 審議事項

(4-1) 規格委員会書面投票意見対応案(詳細規定案材料分科会関連)

[資料 59-7]

詳細規定案材料分科会関連の規格委員会書面投票(再投票)について付記意見への対応案を審議し, 出席委員全員の賛成により承認され, 規格委員会全委員へ回答をすることとした。

<意見対応案>

No.187 詳細規定案材料分科会関連

吉田委員反対意見

(a): 本対応案作成にあたり, 意見者の吉田委員に主旨の確認を行った上で作成していることの説明が木村委員(材料分科会主査)からされた。

「第Ⅲ章以降の構造設計では第Ⅱ章の許容応力表の備考部分も含めて引用されるため, 矛盾は無い」ことを説明し, 材料分科会対応案通りとする。

吉田委員保留意見

- (a):材料分科会対応案通り単位を MPa で統一修正する。
- (b):記載の不整合は無いことを説明し、材料分科会対応案通りとする。
- (c):誤記修正の対応を実施し、材料分科会対応案通りとする。
- (d):誤記修正の対応を実施し、材料分科会対応案通りとする。
- (e):問題が生じないことを説明し、材料分科会対応案通りとする。
- (f):不整合がないこと、UHA は規格対象として想定されないため従来から取り込んでいないことを説明し、材料分科会対応案通りとする。
- (g):材料分科会対応案通り単位を MPa で統一修正する。
- (h):第IV章の製品で使用する場合には二重の衝撃試験要求があることとなるが、UG-84 の対象が UCS に規定されている材料のみとなり備考 18 が該当する材料は UG-84 の対象外となる(備考 18 の材料は二重に衝撃試験を要求されない)ことを説明し、材料分科会対応案通りとする。
- (i):表記内容の見直しについては次回改訂時に検討とする材料分科会対応案通りとする。
- (j):誤記修正の対応を実施し、材料分科会対応案通りとする。なお、表 II-1-4 の備考も同様の修正を実施する。

鈴木委員保留意見

- ・吉田委員への対応案を確認してもらうとする材料分科会対応案の通りとする。

(4-2)JESC審議用説明資料案

[資料 59-8]

規格委員会にて詳細規定案材料分科会関連について承認された際には、JESC審議を受けることとなるため、規格策定時に作成されたJESC説明資料案をベースに意見対応等で変更が必要となった部分等について確認した。添付資料3の構造分科会関連、添付資料4の溶接分科会関連及び添付資料5の ASME との相違点説明資料については、表現を分かり易くするように統一して変更することとなり、変更後各分科会にてメール審議後、火力専門委員会委員によるメール審議を実施して最終確定とする方針ですすめることが承認された。

<主な意見等>

- ・添付資料3, 4の要求事項の保安水準の変化を区分する際には、選択肢が増えることで必ずしも緩やかになる訳ではないというご意見を前回の JESC 審議でいただいているので、前回 JESC 審議資料をよく確認し、区分を行うこと。
- ・添付資料3および4において要求事項の保安水準が緩やかになる可能性がある規定③の説明文は、「保安水準が緩やかになる」と記載すると JESC 委員に誤解を与えたり混乱する可能性があるので、「緩やかになる可能性があるものについて十分検討をおこなったところ、～の理由で省令が要求する保安水準をみたすことを確認した」という記載にすべきである。
- ・添付資料4 VI章5に記載された表が途中から位置ずれているので修正すること。
- ・添付資料5 VI章 QW-153 における ASME との相違点の説明文中「母材部分で破断した場合、引張強さの 5%を超えない範囲であれば要求事項を満足している」と見なせる」が抜粋範囲が不適切でわかりにくくなっているため、「引張強さの 5%を超えない範囲であれば」を「母材の最小規定引張強さを下回ったとしても 5%を超えない範囲であれば」と修正する。

- ・添付資料5の ASME と JSME との比較表について説明する必要性について質問があった。JSME 規格として ASME の丸写しではなく、独自性を持った規格であることを説明するために当該資料を説明する考えであることが回答された。
- ・資料における年版が X 年となっている件については、事務局にて確認して必要に応じて 2012 年版とすること。(→後日、原子力規格側ではパブコメ募集は年版を仮決めして実施していることを確認しました。JESC 及びパブコメ募集は 2012 年版として手続きを進めることと致します。・・事務局)
- ・資料の修正にあたり、説明対象を網掛けにする等わかりやすくすること。
- ・JESC 事務局でもある高須委員から JESC 技術会議が 4 月 24 日、JESC 本会議が 5 月 31 日に開催予定である旨、情報提供があった。

5. 次回開催予定

日 時:2012 年 5 月 18 日(金) 13:30～17:00

場 所:日本機械学会 第1会議室

以 上